○　「ひなた場」参観の様子

○　演習の様子

○　リフレクションのまとめ

【公開授業の感想】

・　中学生や高校生の表情や考え方の変化をリアルに見ることができた。

・　ひなた場という言葉は知っていましたが、実際に見たのは初めてでした。高校生のプレゼン力に驚かされました。アウトプットの機会を意識して増やしていきたいと思います。

・　高校生がこんなにお話ができるのに驚きました。高校生が相手の反応を見ながら、自分の話を和やかにしていて、中学生も聞きたいことや知りたいことが聞けて楽しい時間を過ごすことができたのではと思います。プレゼンも素晴らしかったです。経験をもとにできていて、中学生にとっても高校生にとってもよい距離感でよかったと思いました。

・　「人生紙芝居」における飯野高校生の自信に満ち溢れた堂々とした説明には驚かされました。自身の体験や探究活動の成果など、中学生にもわかりやすく説明していたのが印象的でした。

「人生グラフ」では、飯野高校生の語りを中学生が真剣に聞き、一対一の場面では中学生の人生グラフに高校生が親身になって話している姿を見ることができ、感動しました。

・　生徒たちが、楽しみ、生き生きしながら自分や他の生徒たちの今までの出来事や将来の話をし合っているのが印象的だった。生徒たちで話し合いを進めていることや、中学生と高校生の交流の場になっていることが、とても意義があると感じた。

【人生グラフの作成・共有体験の感想】

・　他の人の話を聞くことで自分の視野を広げることができました。
・　人生を振り返る貴重な時間になりました。初対面だからこそ話しやすいというところも実感できました。
・　実際に振り返ると自分で思っていたより大変だったことがそうでもなくて、共有することでお互いの壁が一気に取り払われて良い活動でした。
・　「このどん底のときにどういう気持ちで這い上がったか」とか、今までの「頑張っていたときの自分」を見つめ直すことができた。こういう点でも良いキャリア教育だなと思った。
・　自らの人生を振り返り、これからの人生を見直すよい体験になった。子ども達にも同じよう体験をさせたいと思いました。

【自校（各市町村）への取組にどうつなげていきたいか】

・　学年、学校をまたいで、交流する機会が設定できればと思いました。
・　地域の方や親御さんと同じようなことをして話を聞いたり質問したりするのもよいかなと思いました。
・　学級裁量の LHR の時間を使って実施、学校から参加者を募って実施、部活動単位で実施（高校バスケ部対中学生バスケ部など）
・　市町村の枠を超えた、小中高の連携があるとよいと思う。
・　高校生と教員だけでなく、高校生と地域の方、地域の中学生と繋がるイベントを企画したい。
・　高校のオープンスクールで、高校生と中学生が座談会形式で「ひなた場」みたいな対話型プログラムを取り入れるのもありかと思いました。
　また、新入生に対してアイスブレーキング的な内容で取り入れることもできるかなと思っています。
・　現在本校では、他高校や大学、企業など様々な実習や交流を行っているので、その中に、キャリア教育を目的の主軸にした時間を設定する。今は受け身の交流が多いので、こちらから発信する形のものも考えていきたい。
・　よのなか教室前後の学習機会を利用し、学生に人生グラフをかいてもらうことやアウトプットの時間をつくり、その後ひなた場実施へ繋げていきたい。
・　企業と高校生の繋がりはできてきたが、次は中学生や小学生との連携に発展させていきたい。そこでの繋がりが志願者増につながるようにしていきたい。

多くの先生方の御参加、アンケートへの御協力ありがとうございました。